

令和4年 9月1日	農作物病害虫発生予報 9月	山口県病害虫防除所 山口県農林総合技術センター
--------------	--------------------------------	----------------------------

～目 次～

I	予報の概要	1
II	予報	
	【主要病害虫】	2
	【その他の病害虫】	14
III	参考(予報の見方、気象予報)	15

I 予報の概要

農作物名	病害虫名	予想発生量	現 況	
			平年比	前年比
イネ	いもち病(穂いもち)	やや多	平年並	少
	紋枯病	多	多	多
	トビイロウンカ	やや少	やや少	少
	コブノメイガ	平年並	平年並	多
	斑点米カメムシ類	多	多	前年並
ダイズ	ハスモンヨトウ	平年並	平年並	多
	吸実性カメムシ類	やや多	やや多	前年並
カンキツ	かいよう病	やや少	やや少	少
	黒点病	少	少	前年並
	ミカンハダニ	少	少	少
果樹全般	カメムシ類	平年並	平年並	前年並
野菜全般	ハスモンヨトウ	平年並	平年並	前年並
	オオタバコガ	平年並	平年並	前年並
	シロイチモジヨトウ	平年並	平年並	少

お問い合わせ先

TEL (083) 927-4006

FAX (083) 927-0214

E-mail a172011@pref.yamaguchi.lg.jp

II 予報

イ ネ

1 いもち病（穂いもち）

令和4年7月19日付令和4年度農作物病害虫発生予察注意報第4号参照

<https://www.pref.yamaguchi.lg.jp/soshiki/122/22328.html>

(1) 予報内容

予想発生量	現況		防除時期
	平年比	前年比	
やや多	平年並	少	粉剤・液剤：穂ばらみ後期と穂揃期の2回 粒剤・パック剤：出穂前

(2) 予報の根拠

ア 葉いもちの8月下旬の巡回調査では、発生ほ場率は35.0%（平年13.8%）、発病株率11.7%（平年5.2%）、発病度3.8（平年1.4）で平年に比べ多かった（+）。

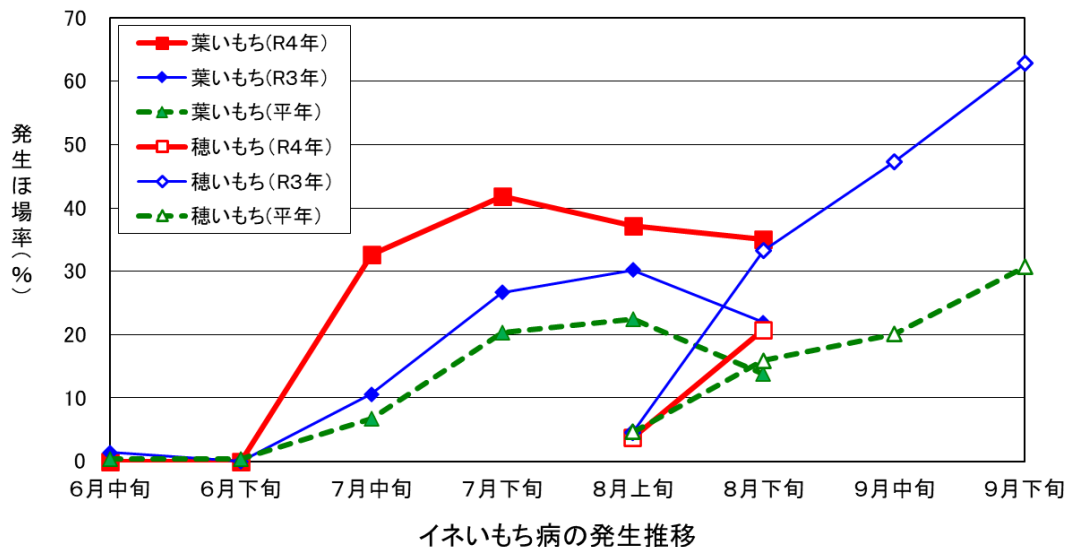
イ 穂いもちの8月下旬の巡回調査では、発生ほ場率は20.8%（平年15.9%）、発病株率2.5%（平年3.4%）、発病度0.1（平年0.4）で平年並みであった（±）。

ウ 気象予報では、9月の降水量は平年並みか多い（+）。

(3) 防除対策

<防除のポイント>

穂いもちの防除を適期に実施する。粉剤・液剤は、穂ばらみ後期と穂揃期の2回行い、粒剤・パック剤は出穂前に施用する。防除後も発生が多い場合には追加防除を行う。



2 紋枯病

(1) 予報内容

予想発生量	現況		防除時期
	平年比	前年比	
多	多	多	—

(2) 予報の根拠

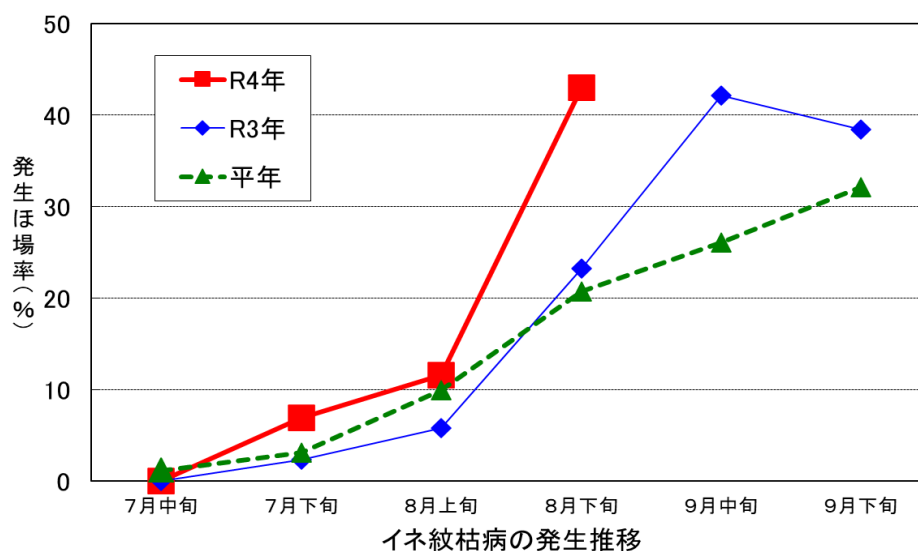
ア 8月下旬の巡回調査では、発生ほ場率43.0%（平年20.7%）、発病株率8.6%（平年3.1%）、発病度3.0（平年1.1）で平年に比べ多かった（+）。

イ 気象予報では、9月の気温は高い、降水量は平年並か多い（+）。

(3) 防除対策

<防除のポイント>

多発した場合は、出穂期後2週間までに防除する。



3 トビイロウンカ

令和4年8月1日付け令和4年度農作物病害虫発生予察技術資料第3号参照

<https://www.pref.yamaguchi.lg.jp/soshiki/122/22318.html>

(1) 予報内容

予想発生量	現況		防除時期
	平年比	前年比	
やや少	やや少	少	多発時

(2) 予報の根拠

ア 8月下旬の巡回調査では、発生ほ場率1.2%（平年40.6%）、10株当たり虫数0.0頭（平年33.4頭）、10株当たり短翅型成虫数0.0頭（平年0.6頭）で平年に比べやや少なかった（-）。

イ 気象予報では、9月の気温は高い（+）。

(3) 防除対策

<防除判断>

ほ場をよく観察し、多発生が確認された場合は直ちに防除を実施する。なお、防除実施7日後に再確認し、必要に応じ再度防除を実施する。

<防除のポイント>

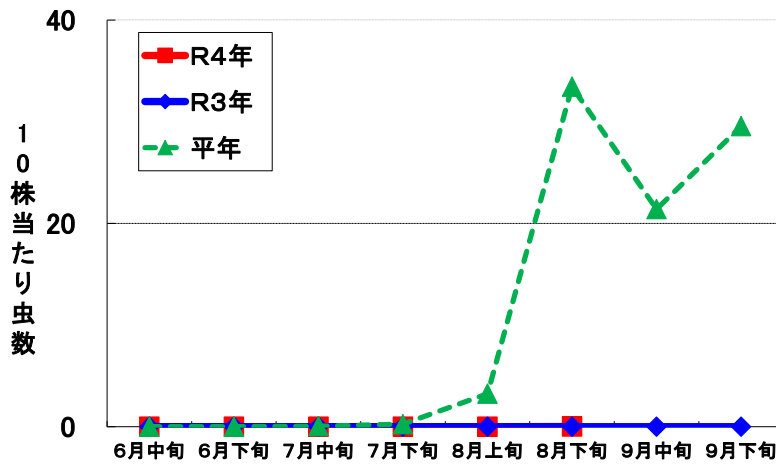
ア 直播栽培ほ場や本虫に効果の高い箱施用剤が使用されていないほ場では、発生状況をよく確認し、効果の高い薬剤により防除を的確に行う。

イ 薬剤は株元によくかかるように丁寧に散布する。

トビロウンカ		JPPネット有効積算温度シミュレーション													
		9月							10月						
飛来日	飛来量	5	10	15	20	25	30	5	10	15	20	25	30		
7月19日	並	第2世代幼虫			第2世代成虫				卵			第3世代幼虫			
		防除適期													

トビロウンカの防除適期予測図

9月1日現在



トビロウンカの発生推移

4 コブノメイガ

(1) 予報内容

予想発生量	現況		防除時期
	平年比	前年比	
平年並	平年並	多	粉剤・液剤：(中生品種対象) 若齢幼虫最盛期

(2) 予報の根拠

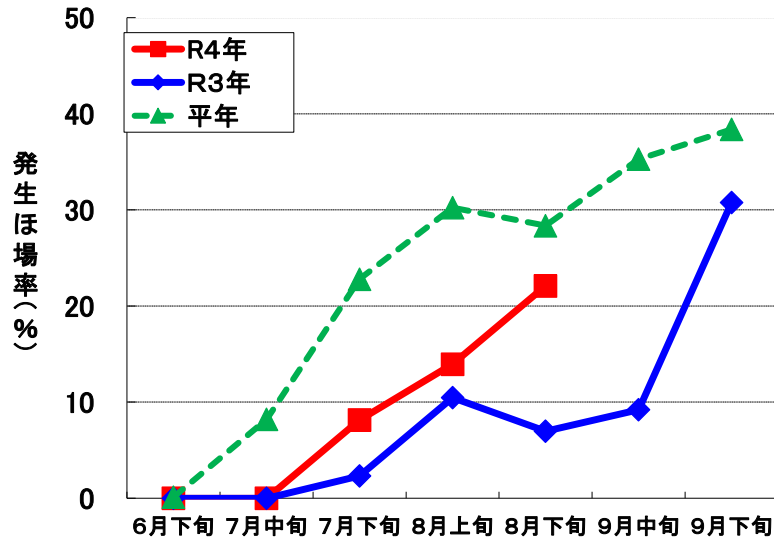
ア 8月下旬の巡回調査では、発生ほ場率22.1%(平年28.4%)、被害株率1.5%(平年10.5%)、被害葉率0.0%(平年0.9%)、20回払い出し虫数0.2頭(平年1.1頭)で平年並みであった(±)。

イ 気象予報では、9月の気温は高い、降水量は平年並か多い(+)

(3) 防除対策

<防除判断>

出穂後は、水稻への産卵が少なくなるため防除は必要ない。



コブノメイガの発生推移

5 斑点米カメムシ類

令和4年7月4日付け令和4年度農作物病害虫発生予察注意報第1号参照

<https://www.pref.yamaguchi.lg.jp/soshiki/122/22328.html>

(1) 予報内容

予想発生量	現況		防除時期
	平年比	前年比	
多	多	前年並	穂揃期と穂揃期後7日

(2) 予報の根拠

ア 8月下旬の巡回調査(出穂ほ場)では、発生ほ場率65.7%(平年56.4%)、20回すくい取り虫数3.8頭(平年1.8頭)で平年に比べ多かった。主要種はイネカメムシ、クモヘリカメムシであった(+)。

イ 7月26日～8月25日の予察灯(県内4か所)の誘殺数は、1,459頭(平年1,185頭)で平年に比べやや多かった(+)。

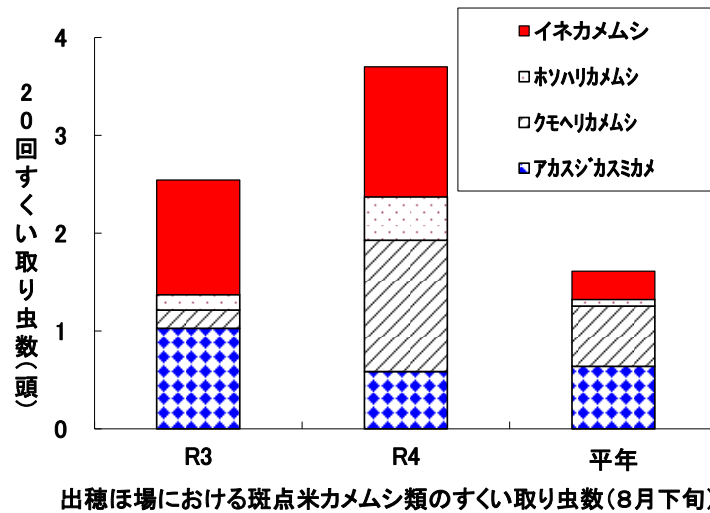
ウ 気象予報では、9月の気温は高い(+)。

(3) 防除対策

<防除のポイント>

ア すでに防除を実施したほ場においても、カメムシ類の発生が多い場合は追加防除を行う。

イ 防除時期に畦畔に出穂したイネ科雑草がある場合は、農薬の飛散に注意のうえ、畦畔も含めて防除を実施する。



ダイズ

1 ハスモンヨトウ

(1) 予報内容

予想発生量	現況		防除時期
	平年比	前年比	
平年並	平年並	多	発生初期(若齢幼虫期)

(2) 予報の根拠

- ア 8月下旬の巡回調査では、発生ほ場率23.8%(平年35.6%)、1a当たり白変か所数0.2か所(平年0.5か所)、1㎡当たり虫数は1.1頭(平年0.7頭)で平年並みであった(±)。
- イ 8月のフェロモントラップ(山口市大内)による誘殺数は、1,178頭(平年2,904頭)で平年に比べやや少なかった(-)。
- ウ 7月21日～8月20日のフェロモントラップ(県内4カ所)における誘殺数は2,721頭(平年2,722頭)で平年並みであった(±)。
- エ 気象予報では、9月の気温は高い(+)

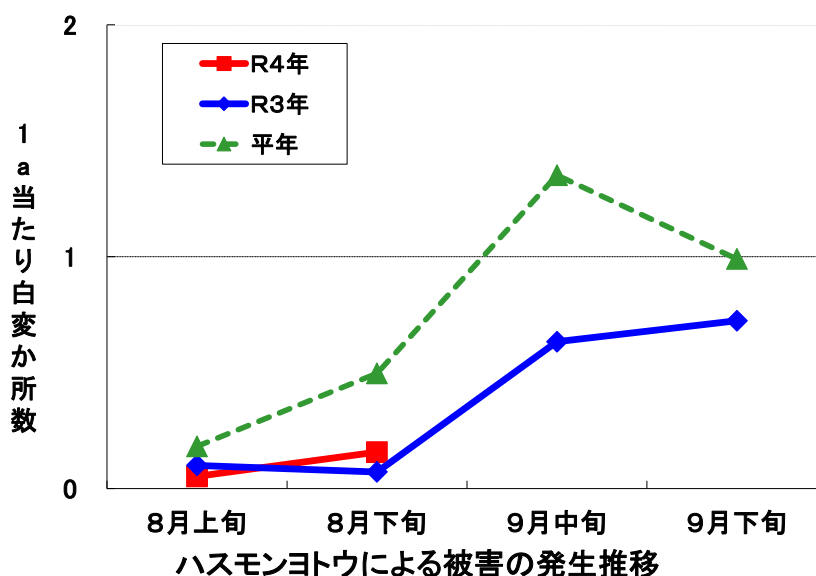
(3) 防除対策

<防除判断>

防除の目安は、白変か所数が1a当たり5か所以上である。

<防除のポイント>

- ア 発生量は地域やほ場によりばらつきがあることから、ほ場をよく観察し、防除適期(若齢幼虫最盛期)に薬剤防除を実施する。
- イ 薬剤抵抗性を発達させないため、同一系統の薬剤の連用は避ける。



2 吸実性カメムシ類

令和4年8月19日付け令和4年度農作物病害虫発生予察注意報第5号参照

<https://www.pref.yamaguchi.lg.jp/soshiki/122/22328.html>

(1) 予報内容

予想発生量	現況		防除時期
	平年比	前年比	
やや多	やや多	前年並	莢伸長期（開花期後30日頃）と子実肥大期（開花期後45日頃）

(2) 予報の根拠

ア 8月下旬の巡回調査では、発生ほ場率47.6%（平年37.5%）、1㎡当たり虫数0.3頭（平年0.2頭）で平年に比べやや多かった（+）。

イ 7月26日～8月25日の予察灯（県内4か所）の誘殺数は54頭（平年52頭）で平年に比べやや多かった（+）。

ウ 気象予報では、9月の気温は高い（+）。

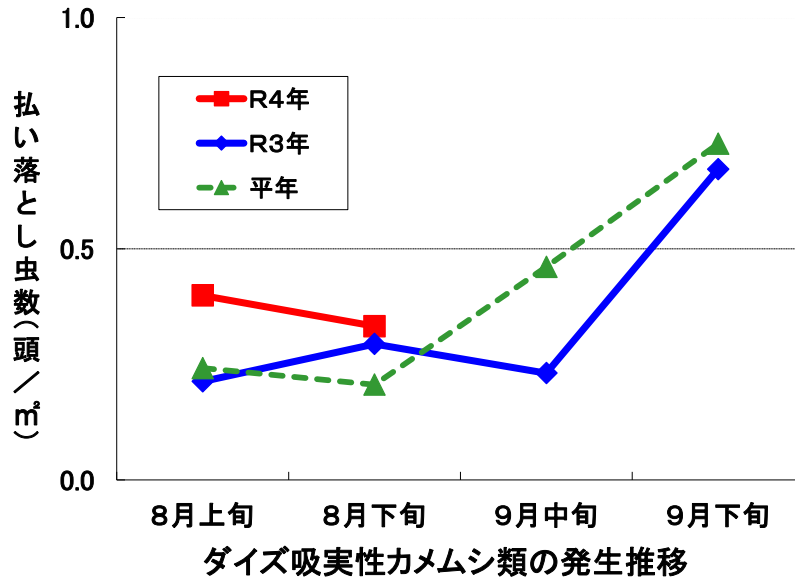
(3) 防除対策

<防除のポイント>

ア 開花期は各ほ場の品種や生育状況によって異なるので、開花期を十分確認のうえ、カメムシの発生状況を確認し、防除を実施する。

イ 薬剤散布後にも発生が認められる場合は、追加防除を実施する。

ウ 防除の際はダイズの莢に薬剤が十分かかるよう散布する。



カンキツ

- 1 かいよう病
 (1) 予報内容

予想発生量	現況		防除時期
	平年比	前年比	
やや少	やや少	少	台風の前

- (2) 予報の根拠

ア 下旬の巡回調査では、発生ほ場率5.3% (平年10.1%)、発病果率0.3% (平年0.8%)、発病度0.1 (平年0.4) で平年に比べやや少なかった (-)。
 イ 気象予報では、9月の降水量は平年並か多い (+)。

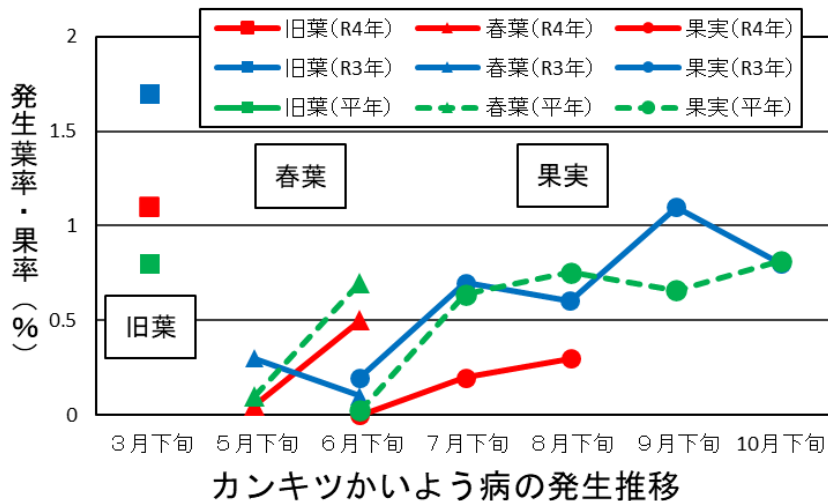
- (3) 防除対策

<防除判断>

発生が見られるほ場や、あまなつ、いよかん等発病しやすい品種では、台風の前防除を実施する。

<防除のポイント>

- ア 病斑のある枝や葉は伝染源となるので除去する。
- イ 防風樹や防風ネットを整備し、強風による感染を防ぐ。
- ウ 夏秋梢はミカンハモグリガの被害が発生しやすく、本病の発生を助長するので、できる限り除去する。幼木や隔年交互結実園の遊休樹など夏秋梢を残す場合にはミカンハモグリガの防除を徹底する。



2 黒点病

(1) 予報内容

予想発生量	現況		防除時期
	平年比	前年比	
少	少	前年並	防除後の累積降水量が200～250mmに達したとき、または、薬剤散布後1か月を経過したとき

(2) 予報の根拠

- ア 下旬の巡回調査では、発生ほ場率26.3%(平年77.7%)、発病果率4.9%(平年21.8%)、発病度1.0(平年5.6)で平年に比べ少なかった(ー)。
- イ 気象予報では、9月の降水量は平年並か多い(+)

(3) 防除対策

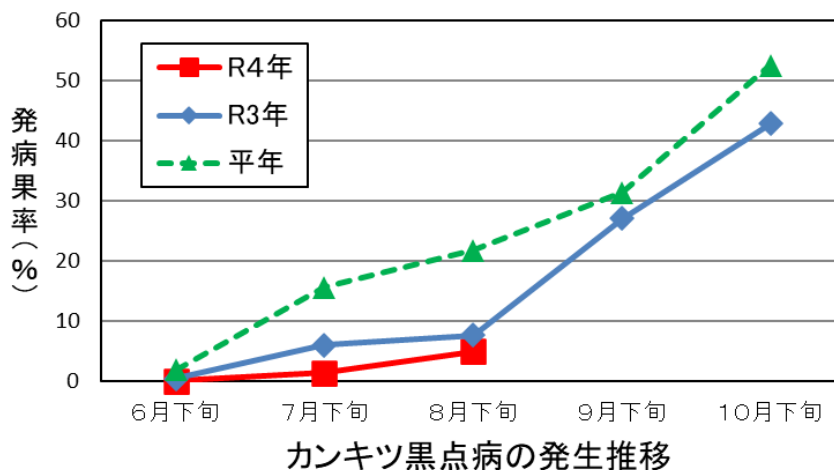
<防除判断>

予防散布が基本なので、予報内容の防除時期に合わせて防除を実施する。

- ア 防除後の累積降水量が200～250mmに達したとき。
- イ 降水量が少ない場合は、薬剤散布後1か月を経過したとき。

<防除のポイント>

- ア 樹冠内の枯れ枝や放置されたせん定枝は本病の伝染源となるので、園外に持ち出して処分する。
- イ 「せとみ」の黒点病は病斑が大きくなり、外観品質に及ぼす影響が大きいため、防除が遅れないように留意する。



3 ミカンハダニ

令和4年7月4日付け令和4年度病害虫発生予察技術資料第1号を参照

<https://www.pref.yamaguchi.lg.jp/uploaded/attachment/122411.pdf>

(1) 予報内容

予想発生量	現況		防除時期
	平年比	前年比	
少	少	少	雌成虫の寄生葉率30~40%以上、または、雌成虫1葉当たり0.5~1頭以上

(2) 予報の根拠

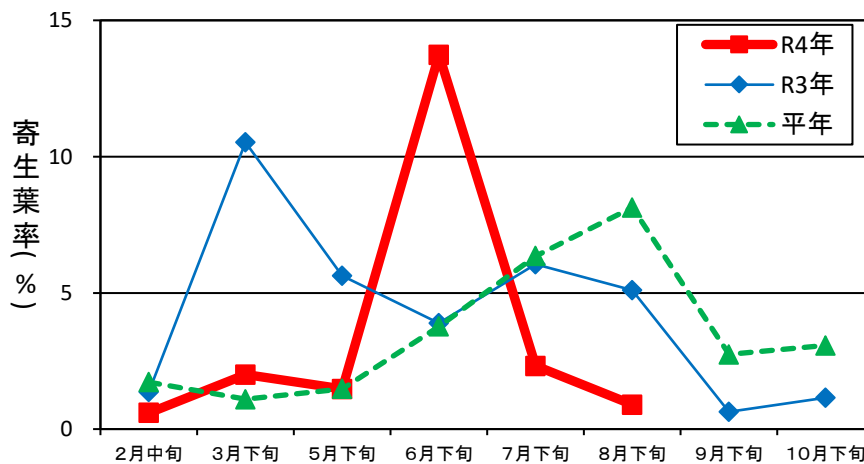
ア 下旬の巡回調査では、発生ほ場率5.3%(平年42.6%)、寄生葉率0.9%(平年8.1%)で平年に比べ少なかった(ー)。

イ 気象予報では、9月の気温は高い、降水量は平年並か多い(±)。

(3) 防除対策

<防除のポイント>

薬剤散布後は、防除効果を確認し、その後も発生が認められる場合は、系統の異なる薬剤で追加防除を実施する。



ミカンハダニの発生推移

果樹全般

(カンキツ、ナシ、リンゴ)

1 カメムシ類 (チャバネアオカメムシ、ツヤアオカメムシ、クサギカメムシ)

令和4年7月4日付け令和4年度病害虫発生予察注意報第2号を参照

<https://www.pref.yamaguchi.lg.jp/uploaded/attachment/122382.pdf>

(1) 予報内容

予想発生量	現況		防除時期
	平年比	前年比	
平年並	平年並	前年並	園地への飛来を確認した時

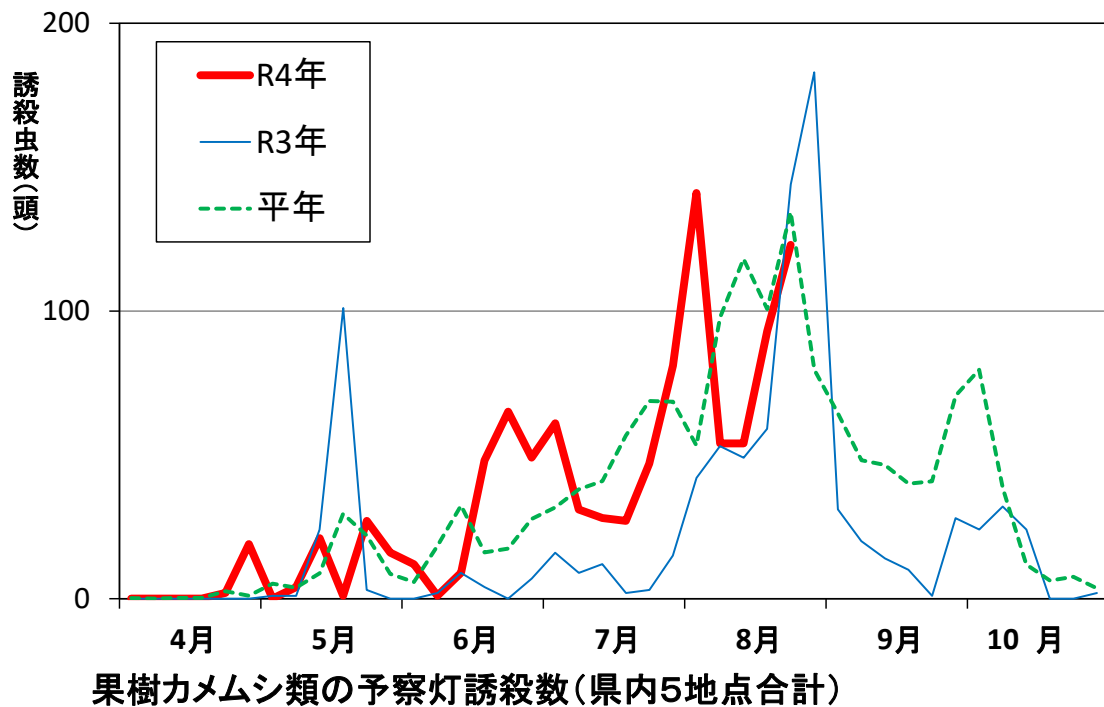
(2) 予報の根拠

- ア 7月26日～8月25日の予察灯（県内5か所）の誘殺数は、546頭（平年549頭）で平年並みであった（±）。
- イ 7月26日～8月25日のフェロモントラップ（県内5か所）のチャバネアオカメムシの誘殺数は、761頭（平年3,313頭）で平年並みであった（±）。
- ウ スギ・ヒノキの毬果量調査（県内6か所）では、スギ、ヒノキとも平年並みの着果程度であった（±）。

(3) 防除対策

<防除のポイント>

例年被害を受ける園や山林に隣接した園では、特に飛来に注意する。



野菜全般

1 ハスモンヨトウ

(1) 予報内容

予想発生量	現 況		防除時期
	平年比	前年比	
平年並	平年並	前年並	発生初期（若齢幼虫期）

(2) 予報の根拠

- ア 8月のフェロモントラップ（山口市大内）の誘殺数は、1,178頭（平年2,904頭）で平年に比べやや少なかった（-）。
- イ 7月21日～8月20日のフェロモントラップ（県内4か所）の誘殺数は、2,721頭（平年2,722頭）で平年並みであった（±）。
- ウ 気象予報では、9月の気温は高い、降水量は平年並みか多い（±）。

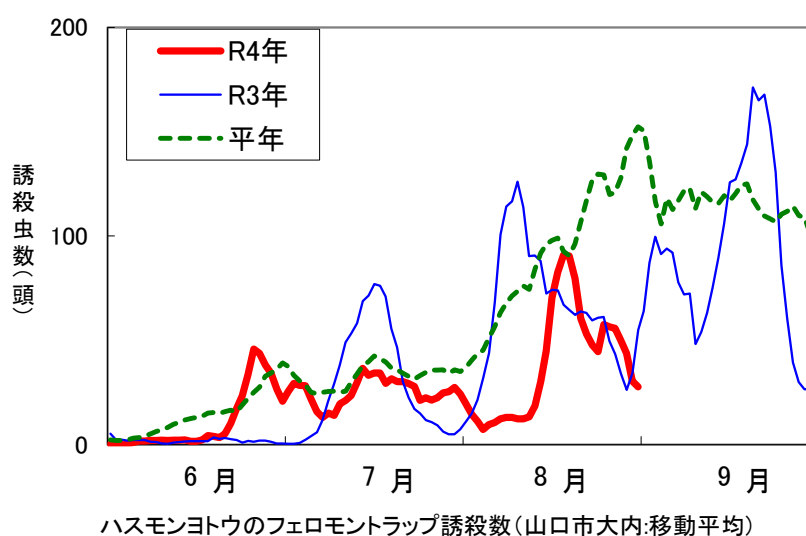
(3) 防除対策

<防除判断>

野菜では、苗床や定植直後に加害されると被害が大きいため、こまめに発生状況を確認する。

<防除のポイント>

- ア 卵塊や若齢幼虫が集団で食害している葉を探し、捕殺する。
- イ イチゴ等の施設栽培では、鉄骨パイプや天井ビニール等に産卵することが多いので、黄褐色の毛に覆われた卵塊を見つけたら直ちに捕殺する。
- ウ 若齢幼虫期の防除を徹底する。
- エ 薬剤抵抗性を発達させないため、同一系統の薬剤の連用は避ける。



2 オオタバコガ

令和4年7月4日付け令和4年度農作物病害虫発生予察注意報第3号参照

<https://www.pref.yamaguchi.lg.jp/soshiki/122/22328.html>

(1) 予報内容

予想発生量	現況		防除時期
	平年比	前年比	
平年並	平年並	前年並	発生初期(若齢幼虫期)

(2) 予報の根拠

ア 8月のフェロモントラップ(山口市大内)の誘殺数は、35頭(平年27頭)で平年並みであった(±)。

イ 気象予報では、9月の気温は高い、降水量は平年並みか多い(±)。

(3) 防除対策

<耕種的防除等>

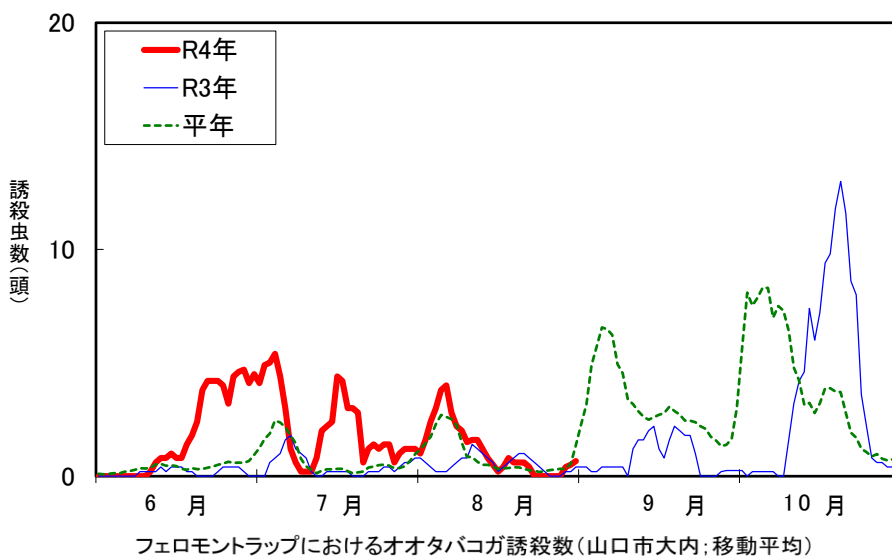
ア 幼虫は見つけ次第捕殺する。

イ 施設栽培では、開口部に防虫ネット(目合い4mm以下)を設置し、成虫の侵入防止に努める。

ウ 黄色蛍光灯を終夜点灯すれば、ほ場への侵入や作物への産卵を抑制できる。

<防除のポイント>

- ア 中～老齢幼虫は内部に潜入し、防除効果が劣るので、若齢幼虫時の防除を徹底する。
- イ 薬剤散布後も、被害の拡大が認められる場合には、追加防除を実施する。
- ウ 薬剤抵抗性を発達させないため、同一系統の薬剤の連用は避ける。



3 シロイチモジヨトウ

令和4年7月20日付け令和4年度農作物病害虫発生予察技術資料第2号参照

<https://www.pref.yamaguchi.lg.jp/soshiki/122/22318.html>

(1) 予報内容

予想発生量	現況		防除時期
	平年比	前年比	
平年並	平年並	少	若齢幼虫期

(2) 予報の根拠

- ア 8月のフェロモントラップ(山口市大内)の誘殺数は、68頭(平年60頭)で平年並みであった。(+)。
- イ 気象予報では、9月の気温は高い、降水量は平年並みか多い(±)。

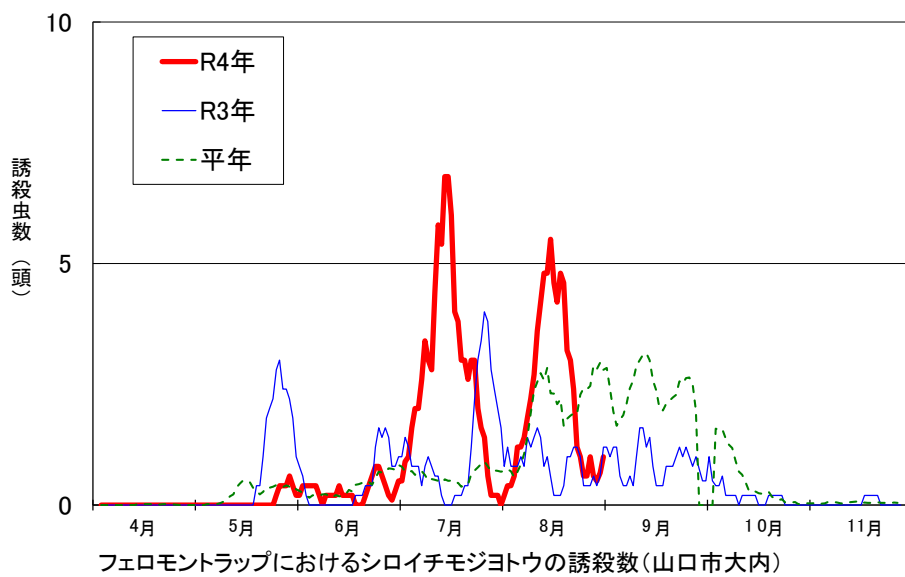
(3) 防除対策

<耕種的防除等>

- ア 卵塊や被害部位は見つけ次第除去する。
- イ 施設栽培では、開口部に防虫ネット(目合い4mm以下)を設置し、成虫の侵入防止に努める。

<防除のポイント>

- ア 定期的にはほ場をよく観察し、発生が認められた場合には直ちに防除を行う。
- イ 薬剤散布後も、被害の拡大が認められる場合には、追加防除を実施する。
- ウ 薬剤抵抗性を発達させないため、同一系統の薬剤の連用は避ける。



【その他の病害虫】

作物名	病害虫名	予 発 生 量	現 況		発生ほ場率		備 考
			平年比	前年比	本年 (%)	平年 (%)	
イネ	ごま葉枯病	多	多	多	32.6	18.0	穂いもちとの同時防除を行う。
	ツマグロヨコバイ	少	少	少	4.7	18.8	出穂期以降に多発生することがある。
野菜全般	アブラムシ類	平年並	平年並	少	—	—	8月の山口市の黄色水盤による誘殺数は159頭（平年263頭）であった。
	コガネムシ類	やや多	やや多	少	—	—	県内5か所の予察灯における誘殺数(4/1～8/25)は991頭（平年823頭）であった。

Ⅲ 参考

1 予報の見方

(1) 病虫害発生量の基準（原則として過去10年間の発生量と比較）

ア 平年比

多	過去10年間で最も多かった年と同程度以上の発生
少	〃 で最も少なかった年と同程度以下の発生
やや多	〃 で2～3番目に多かった年と同程度の発生
やや少	〃 で2～3番目に少なかった年と同程度の発生
平年並	〃 で標準的にみられた発生（上記4項目を除くもの）

注：過去の発生量との比較を表わすもので、被害や防除の必要性とは異なる）

イ 前年比

多	平年比の5段階評価で区分し、前年の評価より多い発生
少	〃 前年の評価より少ない発生
前年並	〃 前年の評価と同等の発生（上記2項目を除くもの）

(2) 病虫害発生時期の基準（原則として過去10年間の発生時期と比較）

早 い	過去10年間の平均値より6日以上早い
遅 い	〃 より6日以上遅い
やや早い	〃 より3～5日早い
やや遅い	〃 より3～5日遅い
平年並	〃 を中心として前後2日以内

(3) 予報根拠における発生要因の評価基準

+	発生を助長する要因
±	発生の助長及び抑制に影響の少ない要因
-	発生を抑制する要因

2 気象予報

(1) 概要

1か月気象予報（8月25日福岡管区气象台発表）

予 報	低 い (%) 少ない	平年並 (%)	高 い (%) 多 い
気 温	20	30	50
降 水 量	20	40	40
日照時間	40	40	20

週ごとの気温傾向

予 報	低 い (%)	平年並 (%)	高 い (%)
1 週 目	20	30	50
2 週 目	20	50	30
3～4 週目	20	30	50